

痛み外来を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	難治性疼痛及び慢性疼痛に対する学際的治療の多面的評価
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原 祥裕
担当科等	学際的痛みセンター
研究責任者	(職名) 教授 (氏名) 牛田享宏
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	共同研究施設は下記のホームページに記載します。 厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策ホームページ(http://www.paincenter.jp)
研究の意義・目的	日本における慢性痛及び難治性疼痛に対する集学的治療の有効性と必要性を明らかにするために、現在、集学的医療を行っている23施設及び協力施設6施設と協力して、難治性疼痛及び慢性疼痛に対する介入効果を多面的に定量化することを目的としています。
対象となる患者さん	平成24年6月1日以降に集学的医療を実践している愛知医科大学および当院を含む共同研究施設の疼痛外来を受診した新規患者さん
研究の方法	従来臨床診療に用いられている疼痛、健康関連QOL、抑うつ、ADL、その他に関する問診について、初診時及び初診3ヵ月後、6ヵ月後、12ヵ月後に施行された結果を後ろ向きに比較検討します。なお、問診票への記載を拒否した患者さんは除外します。問診項目は、痛みのつよさの評価として簡易疼痛調査用紙(brief pain inventory)、痛みと活動性に関する評価として疼痛生活障害評価尺度(Pain Disability Assessment Scale)、心理的ストレス評価尺度としてHospital Anxiety and Depression Scale 日本語版)、痛みの影響に関する評価として痛み破局化尺度(Pain Catastrophizing Scale 日本語版)、健康関連QOLの指標としてEuroQol-5D日本語版等を用います。また、通常診療における非侵襲的検査として、電流閾値、姿勢・運動検査を行います。測定部位は、有痛部とその対側同部、遠隔部の骨格筋または骨上になります。各施設で取得したデータは匿名化の後に愛知医科大学学際的痛みセンターに集約して分析を行います。なお、研究方法に関する資料は慢性の痛み対策ホームページで閲覧できます。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2022年3月31日
研究に用いる試料・情報	情報：痛みセンター共通問診記録
外部への試料・情報の提供	外部提供先：愛知医科大学学際的痛みセンター 提供方法：電子ファイルをメールもしくは電子媒体にて提供します。
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。ただし、試料・情報が個人を識別できる場合のみ対応可能です。
問い合わせ先	四国こどもとおとなの医療センター 疼痛医療センター 担当者：(職名) 科長 (氏名) 川崎元敬 〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1 電話 0877-62-1000 (内線 8203)